

考古学研究室報告

第 46 集

ナガラ原東貝塚 7

2010年度 考古学研究室の足跡

2 0 1 1

熊本大学文学部考古学研究室

表紙写真：伊江島城山(タッチュー)

裏表紙写真：ナガラ原東貝塚発掘調査最終日の朝日

序

考古学の楽しさは、遺跡と真剣に向き合って初めて味わうことができる。その点で今年の調査チームは、発掘でも報告書作成作業でもよく頑張った。これはフィールドマスターの松崎友理さんの力に負うところが大きいですが、彼女にとって沖縄での発掘調査は初めてのことだった。それもあってか昨年同じ遺跡の調査に参加した3年生は頼もしかった。金子真夕さんと安田未来さんが二つのグリッドの班長となってメンバーを束ねたし、昨年フィールドマスターを務めた弘中正芳くんは全期間参加して応援し、4年生や博士課程の学生も来島して手伝ってくれた。報告書作成作業では、これまでの調査資料をすべて見直した。土器の分類もシャコガイの整理もたいへんだったが、それなりの結果を引き出している。

わたしは、発掘とは遺跡と対話することだと思う。でも、すぐにいい問いが生まれるわけではないし、相手がすぐに返事をくれるとは限らない。けれど遺跡は必ず答えてくれる。だから遺跡からメッセージをもらえたときは、すごく嬉しい。今年は長く問うていた土器の変化について一つの答えをもらったように思う。この問いは皆で引き継いできたものだ。調査に参加した皆は、この報告書を手にして最初から改めて読んでほしい。遺跡からのメッセージが聞こえてくるだろう。

とはいえ今年の調査は多事であった。8月末から台風が次々に発生し、まるでそれぞれが伊江島を目指しているように思えたものである。台風7号と9号は島を直撃した。こんな時古代人はどうしていたのだろうかと思いながら、遺跡にブルーシートをかけ、土嚢をあて、テントを畳み、器材をトラックにのせ、通過後はグリッドの雨水をかい出した。体育系男子学生の功績を称えておかねばなるまい。

今年も、地権者の安里誠夫さん、玉城盛一さんをはじめ、川平区公民館、伊江村教育委員会、沖縄県立埋蔵文化財センター、それに川平区の皆様にはたいへんお世話になった。島の方々の温かい気持ちがあってこそこの発掘調査である。このことを忘れないようにしよう。

2011年2月

木下尚子

ナガラ原東貝塚 7



現地説明会風景

例言

1. 本書は沖縄県国頭郡伊江村字川平1061-1・1062-1・1071-1番地に所在するナガラ原東貝塚の発掘調査報告書である。
2. 調査は熊本大学文学部考古学研究室を主体とし、伊江村教育委員会・沖縄県教育庁文化課の協力を得て実施された。
調査には科学研究費補助金（基盤研究（A）21242027 代表者：木下尚子）の一部を使用した。
3. 調査担当者は木下尚子（熊本大学文学部教授）と松崎友理（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）である。
4. 調査期間は2010年8月27日から9月7日までの計12日間である。
5. 本書におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は真北を示す。
6. 報告書抄録に示した北緯と東経は、調査基準点P0の世界測地系（15系）による数値である。
7. 調査および合宿の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関から多くのご協力とご援助を賜った（敬称略）。
伊江村教育委員会、沖縄県立埋蔵文化財センター、川平区公民館、安里誠夫、内間京子、玉城盛一、西江徳子、山城康男、大向智子（関西大学）
8. 貝類遺体については黒住耐二先生（千葉県立中央博物館）、脊椎動物遺体については樋泉岳二先生（早稲田大学）、植物遺体については高宮広土先生（札幌大学）、石器石材については神谷厚昭先生（金城町石畳地質研究所）、層序・堆積については松田順一郎先生（財団法人 東大阪市施設利用サービス協会）にそれぞれご教示を賜った。
9. 鉄製刀子のX線CT撮影については、鳥越俊行氏（九州国立博物館）にお願いした。
10. 調査方法や遺物の検討に関しては、8に加え以下の方々からご教示を賜った（敬称略）。
安座間充（金武町教育委員会）、岸本義彦（沖縄石器研究会）、黒沢建明・宮城弘樹（今帰仁村教育委員会）、新里亮人（伊仙町教育委員会）、新里貴之・中村直子（鹿児島大学埋蔵文化財調査室）、中村愿（北谷町教育委員会）、中山清美（奄美市教育委員会）、盛本勲（沖縄県教育委員会）、山崎純男（福岡市教育委員会）
11. 調査参加者は以下の通りである。
木下尚子・杉井健（熊本大学文学部教員）、山野ケン陽次郎（同社会文化科学研究科博士後期課程2年生）、弘中正芳（同社会文化科学研究科博士前期課程2年生）、松崎友理（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）、柴田亮・中原有彩（同文学部4年生）、内海充貴・甲斐郁・金子真夕・塩谷和音・東佳苗・平木琢・宮田翔太郎・安田未来（同文学部3年生）、大塚奈歩・鬼木しおり・志賀健史・留野優兵・中谷美由紀・原田孝典・吉田あかり（同文学部2年生）
12. 写真撮影については、調査参加者全員が担当した。
13. 本書の監修は木下尚子、編集は松崎友理が担当した。執筆分担については執筆者名をそれぞれの文末に示した。

本文目次

一 位置と環境	1
二 調査経過	2
三 調査成果	6
1. 層序	6
2. ピット	6
3. 遺物の出土状況	9
(1) 北1東1グリッドIV下層における遺物の出土状況	9
(2) 北1西1グリッドV層における遺物の出土状況	9
(3) 焼けた痕跡が認められる遺物の出土状況	9
(4) シャコガイの合弁状況	12
4. 出土遺物	14
(1) 土器	14
(2) 石器	22
(3) 鉄器	24
(4) 貝製品	28
(5) 自然遺物	32
四 自然科学的分析	38
1. ナガラ原東貝塚出土の貝類遺体 (2010年度)	38
2. ナガラ原東貝塚の水洗選別試料より検出された脊椎動物遺体 (第7報)	42
3. ナガラ原東貝塚出土の植物遺体 (2010年度)	44
五 まとめ	48

図版目次

図版 1	1 遺跡発掘調査前近景 (北から)
	2 遺跡発掘調査終了時近景 (南から)
図版 2	1 北1西1グリッド東壁土層断面 (南西から)
	2 北1東1グリッドⅢ区IV下層遺物集中状況 (北西から)
	3 北1東1グリッドⅢ区鉄器出土状況
図版 3	1 IV下層出土土器
	2 V層出土土器・出土層位不明土器
図版 4	1 出土石器
	2 出土鉄器
	3 出土鉄器X線CT画像
図版 5	出土貝製品
図版 6	1 貝類遺体
	2 脊椎動物遺体

挿図目次

第1図	伊江島の位置と遺跡分布図	1
第2図	調査区周辺地形および調査区位置図	2
第3図	過去の発掘調査区	3
第4図	調査区配置図および土壌サンプル採取地点位置図	5
第5図	土層断面図	7
第6図	北1西1グリッド検出ピットの平面図および断面図	8
第7図	人工遺物出土状況図	10
第8図	自然遺物出土状況図	10
第9図	焼けた痕跡が認められる遺物の出土状況図	11
第10図	IV下層におけるシャコガイの合弁状況図	13
第11図	口唇部断面形態分類図	15
第12図	I類II類の比較	15
第13図	出土土器実測図(1)	16
第14図	出土土器実測図(2)	17
第15図	刻目の割合	18
第16図	口唇部刻目分類図	18
第17図	刻目分類の比較	18
第18図	突帯の割合	18
第19図	I類における刻目の割合	18
第20図	II類における刻目の割合	18
第21図	底部分類図	19
第22図	底部形態の比較	20
第23図	尖底土器群の比較	20
第24図	平底土器群の比較	20
第25図	底部器壁の厚さの比較	20
第26図	出土石器実測図	22
第27図	IV層・V層出土石材の点数・割合	23
第28図	出土鉄器実測図	24
第29図	九州島における刀子出土古墳数(5～7世紀)	25
第30図	九州島における琉球列島関連遺物出土古墳数	25
第31図	出土貝製品実測図(1)	28
第32図	出土貝製品実測図(2)	29
第33図	オオツタノハ製腕輪出土遺跡分布図	30
第34図	シラナミの殻長組成	32
第35図	ヒメジャコの殻長組成	32
第36図	獣骨および魚骨計測部位図	37
第37図	北1東1グリッドⅢ区北東隅包含層の食用貝類遺体組成(左:種組成 右:生息場所類型組成)	41

第38図	北1東1グリッドⅢ区北東隅包含層の陸産貝類遺体組成 (左：種組成 右：生息場所類型組成) …	41
第39図	ナガラ原東貝塚出土の植物遺体……………	45

表目次

第1表	過去の調査一覧表……………	3
第2表	北1西1グリッド検出ピット一覧表……………	8
第3表	焼けた痕跡が認められる遺物の出土点数……………	11
第4表	シャコガイの出土数と合弁組数……………	12
第5表	出土土器分類・集計表……………	14
第6表	出土土器観察表……………	17
第7表	出土石器計測値一覧表……………	22
第8表	奄美・沖縄諸島における鉄製品および製鉄関連遺物出土一覧 (12世紀以前) ……	25
第9表	九州島における刀子ならびに琉球列島関連遺物出土古墳一覧……………	26
第10表	出土有孔貝製品計測値一覧表……………	28
第11表	出土皿状貝製品計測値一覧表……………	29
第12表	オオツタノハ製腕輪出土遺跡一覧表……………	31
第13表	出土貝類遺体集計表……………	33
第14表	出土脊椎動物名および骨片数・総重量……………	35
第15表	哺乳綱骨出土位置一覧表……………	35
第16表	硬骨魚綱骨出土位置一覧表……………	35
第17表	爬虫綱骨出土位置一覧表……………	35
第18表	出土脊椎動物遺体計測値一覧表 (1) ……	36
第19表	出土脊椎動物遺体計測値一覧表 (2) ……	37
第20表	ナガラ原東貝塚2010年調査で採取した脊椎動物遺体分析用堆積物コラムサンプル TT10 (25×30cm) の構成要素……………	43
第21表	ナガラ原東貝塚堆積物サンプル TT10から水洗選別によって回収された骨類の同定結果 ……	43
第22表	ナガラ原東貝塚 (2010) 出土の植物遺体……………	47
第23表	シラナミと炭化物の ¹⁴ C年代測定値一覧表 ……	51